



打ち込め夢へ

悲願の全国大会目指す 八学野西サッカー一部

雪がまだ残る2月。十和田市内で、八戸学院野辺地西高のサッカー部員たちが練習に励んでいた。生まれや育った場所もはらばらだが、全員が見据える先は全国高校サッカー選手権青森県大会での「初優勝」だ。

現在は県内各地から集まった1、2年生36人が在籍。サッカーに打ち込める環境が整っており、ポジション争いも激しい。

2017〜19年の同大会では3年連続の準優勝に輝き、全国大会まであと一歩と迫った。特に18、19年の同選手権県大会決勝では、全国屈指の強豪校・青森山田を最後まで苦しめる好試合を展開した。

「新チームにはまだまだ足りない部分が多い。それでも先輩から教わった『泥くさく』最後まで走り抜く』の精神を胸に、目標に向かっていく」と主将の鈴木奏汰さん（17）。

さまざまな出会いが待っている高校生活。勉強や部活動に限らず、一生懸命に打ち込める何かが見つかるはずだ。

（文・藤村大地、写真・大粒来仁）

懸命に練習に打ち込む八戸学院野辺地西サッカー部のメンバー
3月17日、十和田市